

名古屋市内でニッポンマイマイを発見!

ニッポンマイマイは、国内の陸貝で *japonica* と一番最初に学名が付けられました。学名は *Satsuma japonica* です。日本を代表する「カタツムリ・デンデムシ」といえます。漢字表記では「日本蝸牛」となります。本州や四国などに広く分布します。山麓から平地にかけての雑木林周辺の草むらなどに生息しています。愛知県内では各地でニッポンマイマイを見ることができ、どちらかといえば自然度の高い環境に生息していますので、名古屋市のような自然度の低い平地や市街地などにはほとんど生息していません。もちろん名古屋市内での正式な記録はありません。レッドデータブックの陸貝調査員(村瀬文好氏)が今年の1月に瀬戸市に近い守山区の雑木林内で発見しました。村瀬さんは本種を名古屋市の各地で見つけられていたので、まさか貴重な発見とは考えず、「目につくものはニッポンマイマイしかいませんでした」とかなり残念そうに私に電話をかけてくれました。思わず私は「大発見じゃないですか、名古屋市初記録ですよ!」と言ってしまいました。名古屋市内では取り立てて珍しいわけではないので無理もありません。ニッポンマイマイは個体変異が多く、殻の形が地域毎に微妙に異なり、マルニッポンマイマイ、カドバリニッポンマイ

マイ、ヌノメニッポンマイマイなどいろいろな亜種名がつけられています。名古屋市の個体は写真から明らかなように周縁が角張るカドバリニッポンマイマイです。殻径が2cmほどの陸貝です。軟体を出して活動していれば比較的目につくにもかかわらず、これまで発見されていなかったので市内には分布していないと考えられていました。昨年の一斉調査では名古屋市の陸貝は新発見の期待ができています。(愛知みずほ大学人間科学部講師 川瀬 基弘)



カドバリニッポンマイマイ

市内一斉に行った陸貝調査の最終報告は、協議会ウェブにてお知らせしています。中間報告はニュースレター5号をご覧ください。

オニバスは今。

昨年11月、名古屋市内では絶滅したとされていたオニバスが、名古屋城外堀で20年ぶりに確認されました。このオニバスは今、どうなっているのでしょうか? 一般的に、オニバスは春から初夏にかけて発芽すると言われています。しかし種子の休眠期間が長いこともあり、毎年必ず発芽するわけではありません。 なごや生物多様性センターでは、オニバスの調査保全を目的に、オニバスの生育に関する情報を収集していますが、名古屋城外堀での発芽は確認できていません。しかし、もしかしら夏ごろにまた大きな葉っぱを水面に広げたオニバスを確認できるかもしれません。(生物多様性専門員 中村 肇)



発芽したばかりのオニバス(東山植物園の栽培個体)

市内では20年ぶりとなるオニバスを確認したことについては、ニュースレター6号でご報告しています。

案内看板を設置

竜巻池の生きものたちを紹介します

平成24年11月、守山区小幡緑地内の竜巻池で池干しを実施し、生物を調査して、池にもともと棲んでいた生物種を守るために外来生物を取除きました。その後、公園を利用する団体有志の方々によって「小幡緑地・竜巻池を美しくする会(仮称)準備会」が発足。当面は毎月第1水曜日に美化活動などが展開されます。4月の活動では、準備会の皆さん、守山土木事務所やなごや生物多様性センターの職員が協力し、池に棲む貴重な動植物の紹介とそれらを守るため2種類の看板を設置しました。多くの公園利用者の目に触れ、池の魅力が伝わり、生物多様性豊かな池を守り育てる人の輪が広がることを願っています。



看板を設置するため、台をやすりで整える



池干しによる調査(昨年11月)



池干しについては、ニュースレター6号でご報告しています。

愛知守山自然の会

湧水湿地があるせせらぎ湿地では動植物の保全・保護をしています。サギソウ、シラタマホシクサ、ノハナショウブ、コバギボウシ、クロミノシゴリなど東海丘陵要素植物、湿性植物が生育しています。手入れをしなければ、遷移し、絶滅します。現在、マメナシを次世代に残せるよう、保護活動していますが、人手が足りません。是非、貴方の力が必要です。力をお貸しください。連絡をお待ちしています。(代表 石原則義)

連絡先 ☒ noriyoshibob@yahoo.co.jp

生物多様性保全に向けての取り組み事例をお寄せください。このニュースレターで紹介していきます。(すべて掲載できない場合もありますので、ご了承ください。)



掲示板

「なごや生きものウォーキング」河川敷のオオキンケイギクの分布を調査します

鳥のさえずり、虫の気配...など、自然を感じながら調査をします。スタッフが同行しますので、植物に詳しい方でなくても大丈夫。歩きやすい服装、靴でご参加ください!

調査日 平成25年 6月15日(土)、16日(日) 午前9時30分~昼すぎ

調査コース 庄内川・天白川などの河川敷 20コース
対象 小学生以上どなたでも(小学生は保護者同伴)
募集人数 300名程度(各コース 15名程度)
申込締切 平成25年5月31日(金)必着
※定員に満たない場合は継続募集しますので、お問い合わせください
申込先 なごや生物多様性センター

※調査コース、お申し込み方法など詳細はウェブhttp://www.bdnagoya.jp または募集要項でご確認ください。

なごや生物多様性保全活動協議会は、毎年、特定の生きものを選び、多くの市民の皆さんとともに、一斉に調査をしています。平成23年度は野鳥を600名で、平成24年度は陸貝を465人で調べました。今年度はオオキンケイギクの分布調査に取組みます。

問い合わせ・申し込み先

住所 名古屋市天白区八事五丁目230番地(地下鉄塩釜口2番または3番出口から徒歩5分)
電話 052-831-8104 FAX 052-839-1695
E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生物多様性センターウェブサイト
http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity

名古屋市公式ウェブサイト
http://www.city.nagoya.jp/

なごや生物多様性保全活動協議会 http://www.bdnagoya.jp



生物多様性センター 検索



参加者募集



オオキンケイギクってどんな植物?

北アメリカ原産のキク科の多年草。高さは30~70cm程度で、毎年5~7月に黄色やオレンジ色のコスモスによく似た花を咲かせます。荒地でもきれいな花をつけることから、全国的に観賞用・緑化用として移入されたといわれています。しかしながら、もともと生育していた植物を衰退させる一因となることが危惧されており、平成18年には外来生物法による「特定外来生物」に指定されました。

なごや生物多様性保全活動協議会とは

市民・専門家・行政といった、さまざまな立場の人が参加する協働組織。なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来生物の防除などを通し、身近な自然の保全に取組んでいます。平成23年5月設立。平成25年4月末現在、33の団体会員と23人の個人会員で構成。事務局はなごや生物多様性センター。このニュースレターでは「協議会」と略して表記することがあります。

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

7号

平成25年5月

植物標本作成研修会を開催

4月23日
なごや生物多様性センターで

なごや生物多様性センターでは、名古屋市版レッドリスト・レッドデータブックを改訂するため、市内の動植物についての実態調査を進めています。しかし、限られた調査スタッフだけではとても探しきれず、思わぬ生物が生きている可能性もあります。それだけに、より多くの市民の皆さんの目が必要だと感じています。

調査が必要なのは、希少な生物だけではなく、今は希少でない生物でも、将来、希少になってしまう可能性があるからです。ところが、かつて市内にあったという記録が無ければ、絶滅したことさえ分からずに見過ごしてしまいます。この機会に、希少と思えない身近な自然についても、将来の検証が可能になるよう調査し、記録として標本を残しておくことが大切だといえます。



なごや生物多様性センターでは、市民協働で調査・保全活動を進めるため、「市民生きもの調査員」を募集しています。詳しくは3面へ。

このニュースレターは古紙/パルプをきむ再生紙を使用しています。

「生物調査」というと、どのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。難しそう?専門家ができること?いいえ。市街化が進んだ地域では、家の近くにも、思わぬ生物が生き残っている可能性もあるのです。

植物(特に花の咲く植物とシダ植物)は比較的大型で、図鑑なども多く発行されているため、誰でも調査しやすいグループです。標本も、特別な道具がなくてもつくれます。ただし、将来検証可能な標本をつくるためには、多少の注意が必要です。そこで今回は、植物標本のつくり方について開催した研修会の様子についてご紹介します。

標本作りは地域の自然を守ります。

なごや生物多様性センターでは4月23日(火)、名古屋市動植物実態調査検討会委員(雑管束植物担当)の芹沢俊介さんを講師に迎え「植物標本作成研修会」を開催しました。初めての参加者も多く、芹沢さんのお話に真剣に耳を傾けていました。「地域の自然を守るためには、実物をしっかり保存する標本づくりが大切」と断言される芹沢さん。身のまわりに当たり前存在している生物も、10年後、20年後にはなくなってしまう可能性があります。そういった場合に役立つのが「標本」です。いつ、なくなったか?現在では、どの地域に生育しているのか?そういった変遷の裏付けのために、標本が重要な資料になります。

例えば、ある場所にタンポポが咲いていたとしても、このタンポポが固有種なのか、外来種なのかを判別することはできません。でも記録に残すことで、その裏付けとなる資料となります。それだけに、標本づくりがいかに大切か。その思いを胸に、参加者の皆さんは川辺に出かけ、標本づくりに使う植物の採集に挑みました。

標本の作り方

1. 植物の採り方

たくさん生えている同じ種類の植物の中から、花や果実など種の特徴が現われているものを選んで採集する。

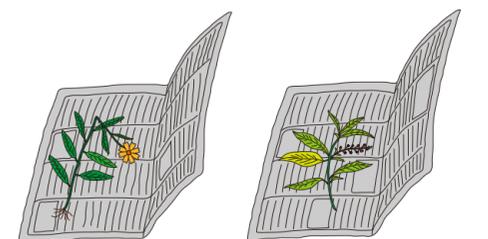


草の場合は、根から丁寧に掘りとり、土をきれいに落とす。

樹木の場合は、はさみ紙の大きさを考慮して枝を切り取る。

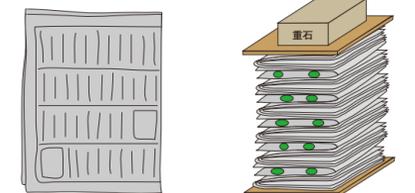
2. 押し葉の作り方

採集した植物は、1種類ずつ1枚のはさみ紙(新聞紙など)にはさむ。紙からはみ出す大きい植物は、VやN、W字状に折り曲げる。はさんだ植物は、葉の折れ曲がっている部分を伸ばし、葉の裏と表、花や果実が良く見えるように形を整える。



はさみ紙の表には、採集した日付・場所・採集者名、花の色など特徴を書き加える。

はさみ紙と吸湿紙(新聞紙など)を交互に重ね、上から重石で押さえる。



一晩おくと植物の水分が吸湿紙に移って紙が湿るため、吸湿紙を取り替える。吸湿紙を取り替える際には、はさみ紙を開いて葉の折れ曲がっているところを直して形を整えますが、はさみ紙自体は最後まで取り替えません。

吸湿紙を毎日取り替えると、1~2週間程で植物が乾燥します。



植物の名前がわからなくても、名前は後で調べられるので、気にせずに採集しましょう。



植物標本作成研修会



いよいよ標本づくりにチャレンジ。

採集から戻ったら、いよいよ標本づくり。長い植物は、VやWの形に折り曲げます。「知らなかった!」という声が多かったのは、太い根や茎をカッターで切って薄くすることです。参加した皆さんは、芹沢さんのお手本を見ながら、メモや写真をとったり、質問をしたりと意欲的に取り組んでいました。

「まずは、自宅まわりのコンパクトな植物から採集してみてください。家の近くなど、身のまわりの自然から採集を始めるのがおすすめです」と語る芹沢さん。

このように、一人でも多くの市民の方に協力していただくことで、膨大な情報量の標本ができあがります。身近なもので、誰にでもできる標本づくり。地域の自然を守るために、今すぐに実践できること。それが標本づくりだ、と参加者の皆さんは納得していました。

家の庭に生えている雑草が毎年変わっていることに気づき、疑問に思っていました。今回の標本づくりを通して、植物を詳しく見てみたくなりました。



もともと標本づくりをしていたのですが、すぐに壊れてしまいました。なごや生物多様性センターの存在を知り、研修に参加しました。これからは身近な植物を採集して、地域の環境のためにも貢献していきたいと思っています。

今回の研修に参加してとてもよかったです。普段知らない植物のあれこれや、標本の正しい作り方を知ることができました。これからは、自宅周辺の植物を標本にしていきます。

鳥居ちよ子さん
名古屋市動植物実態調査検討会委員(雑管束植物担当)

採集時のポイント

- ◎採集したい植物が見つかったら、慌てて採らずに、まずじっくり観察します。周辺にも同じ植物が生育している可能性が高いからです。そして、状態のよい植物を採集します。
- ◎中~小型の植物は、根から取るようにします。
- ◎小さい植物は、5~6つ採集するのがベストです。



芹沢俊介さん
名古屋市動植物実態調査検討会委員(雑管束植物担当)
愛知教育大学名誉教授

きれいに
とれました!

生物調査や講習会などは、いつ、どこでやっているの?

「市民生きもの調査員」募集中

ご登録いただいた方には、生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メール配信します。

登録方法

どなたでも登録できます。
①氏名、②連絡先の電子メールアドレス(無い場合はFAX番号)、③住所、④所属(NPO等に所属している場合)、⑤学生・社会人・その他、⑥別、を記入のうえ、下記までお申し込みください。

■お申し込み先
bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp
FAX052-839-1695

※このサービスへの登録および利用料は無料です。(ただし、登録やメール受信にかかる通信料は利用者負担となります。)

※ご案内は登録された方全員に送信しますが、活動の内容によっては年齢、人数を制限し、参加いただけない場合があります。ご了承ください。

＜お願い＞ご案内は、主にPDFファイルでお送りしますので、PDFファイルが受信可能な電子メールアドレスでの登録をお願いします。(FAXでの登録も可能ですが、提供できる情報が少なくなりますので、ご了承ください。)

市民生きもの調査員 及川 理さんからメッセージをいただきました

大切にしたい名古屋の自然

地元名古屋の生きものに 관심이あり、市民生きもの調査員に応募しました。登録すると嬉しいことに調査や報告会、講座などの案内が送られて来るので、都合を見て参加しています。

昨年未、千種区の猫ヶ洞池での地引き網を使用した生きもの調査に参加し、多くの方と協力して捕獲や選別を行いました。ブルーギルなど多種多様な外来種に混じり、貴重な「ヌマガイ」など来種種の生息を確認できました(写真)。

また、3月に開催された動植物実態調査中間報告会では、多くの方の名古屋の自然、生きものへの関心の高さと市民、研究者、行政の協働の推進を実感することができ、これからの保全の取組みに期待感を覚えました。

来る6月中旬には、一斉調査としてオオキンケイギク分布調査が実施されます。大きな成果をあげた貝類調査に参加できなかったため、今から楽しみにしています。早期の対策は効果的な防除につながるため、事前講習に参加して同定法や取扱い方を習得し、調査に臨む予定です。

今後も身近な自然の調査を通して多くの方々との交流、連携を深め、自然と共生した生きもの豊かな名古屋を目指したいと思います。



採取した生きもの展示・解説(写真提供:及川 理さん)

小幡緑地と金城学院大学で確認されたアカギツネ(ホンダギツネ)

アカギツネ(*Vulpes vulpes*)は、ユーラシアから北アメリカにかけて広く分布しています。日本に分布するものは、アカギツネの亜種としてホンダギツネ(*Vulpes vulpes japonica*)とキタキツネ(*Vulpes vulpes schrenckii*)に分類されることがあります。名古屋市内に生息するキツネは、地理的分布から判断するとホンダギツネにあたります(以下キツネ)。名古屋市のレッドリストでは絶滅危惧IA類に指定されています。

2012年12月21日、守山土木事務所の職員が、小幡緑地で一頭のキツネを目撃したとの情報を寄せてくれました。その後、2013年1月25日に、地元の保全団体から、小幡緑地のせせらぎ広場トンポ池でキツネが死亡しているとの連絡を受けました。実際には1月23日に発見されていたとのこと(写真1)。すぐに現場に駆けつけ、死亡個体を確認したところ、下半身に疥癬(かいせん)の症状がみられました。

疥癬とは、ヒゼンタニというダニが寄生して引き起こす皮膚病です。脱毛が起こり、痒みのために掻きむしることで傷口から細菌感染を起こし、時には死亡することもあります(北海道衛生研究所、キツネが減った!!、http://www.iph.pref.hokkaido.jp/charivari/2008_06/2008_06.htm)。北海道ではキタキツネに疥癬が流行し、それによってキタキツネの生息数が減少したと考えられています(IASR、わが国における野生動物の疥癬:北海道のキツネでの流行について、http://idsc.nih.go.jp/iasr/22/260/dj2605.html)。名古屋市内におけるキツネへの疥癬の蔓延状況はわかっていませんが、ホンダギツネではしばしば確認されていますので、市内のキツネにも悪影響を与えている可能性があります。



2012~2013年の調査で確認した名古屋市内のキツネ確認位置

名古屋市内のキツネは、かつては千種区や名東区でもみられたそうです(レッドデータブックなごや2004動物編)。しかし、現在、市内全域に分布しているホンダギツネやライグマ、ハクビシンとは異なり、市内のキツネの確実な目撃例があるのは、自然が多く残る守山区のみです。昨年実施した名古屋市内レッドリストの調査では、庄内川に近い農地や河川敷の堤防でキツネのものと思われる糞を確認しました(いずれも守山区中志段味)。また最近、守山区にある金城学院大学で教員や学生と実施した自動撮影調査では、構内の森で一頭のキツネを撮影することができました(写真2)。金城学院大学では構内の森を里山として残す計画が進められています。この大学のキャンパスは小幡緑地とも連続した環境にあるので、もしかしたらこの地域一帯にキツネが定着しているのかもしれない。名古屋市のキツネはこのまま市の北東部にとどまるのか、それとも、市内の他の地域に進出できるのか、または、いなくなってしまうのか、今後注視が必要です。

小幡緑地でみつかった死亡個体はなごや生物多様性センターで冷凍保存しました。今後、標本化をすすめ、貴重な名古屋の生物記録としてなごや生物多様性センターに収蔵する予定です。(生物多様性専門員 野呂 達哉)



(写真2)
金城学院大学で撮影されたアカギツネ(2013年4月23日)

(写真1)
小幡緑地で死亡していたアカギツネ(撮影:伴 知幾氏)

なごやの自然の今を伝える 調査中、子どもに捕獲される!?

なごや生物多様性センターと協議会ははじめ市民の皆さんとの協働調査は、昨年度実績で300回近くを数えます。

その中で、調査のために生きものを捕獲していた時、「わー、ザリガニがたくさんいる〜!」と捕獲しておいたアメリカザリガニに気付いたお子さんが声をあげました。そうすると、次々とお友達が集まってきて、「これは何ガメ?」「たくさんいるの?」など質問攻めにあいられない悲鳴。このような時は、生きもの名前や特徴を説明したり、ペットを飼う時は最後まで責任を持って飼うこと、などをお話します。少し難しい話も子どもたちの感性で受け止めてくれ、次代の生物多様性保全を担う子どもたちの反応に頼もしい限り。

しまった!!!こんな時間。気がつけば、生きものを捕獲していたはずなのに、自分が子どもたちに捕まった一。(市民協働推進員 宇地原 永吉)

